

魂!

起業家

株式会社 Air Business Club

代表取締役 大堀 富生さん



株式会社 Air Business Club
■代表者/代表取締役 大堀富生
■従業員数/9名
■住所/滋賀県草津市大路1-1-1
エルティ 932 4F
草津SOHOビジネスオフィス B-15
■創業/2019年
■業務内容/物流プラットフォームのクラウドサービス
■TEL / 077-569-3107
■URL / https://www.air-bc.com



草津SOHO ビジネスオフィスでの会議風景。同社スタッフだけでなく、入居者仲間も加わり、アイデアを出し合う。

時代の大きな転換点を前に 物流革命を通じて環境ソリューション企業へ

人の移動に革命をもたらすといわれ、世界中で脚光を浴びつつある「MaaS」(マース:モビリティ・アズ・ア・サービス)。最新の情報通信技術を用いてあらゆる公共交通機関をシームレスに結びつけ、より効率よく便利に利用できるシステムを指し、日本でも研究・検証が始まっている。このMaaSの考え方を物流に応用、発展させ、モノの移動を根底から変えるシステムを提唱するのが株式会社Air Business Clubだ。

世界に先駆けた物流システム

— 物流はどう変わるのでしょうか

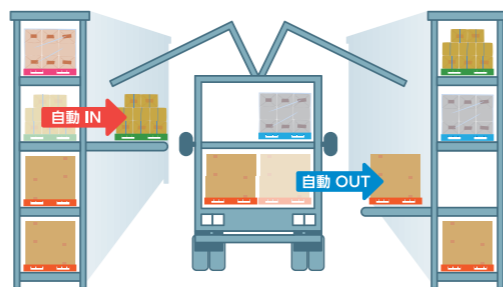
例えば1900年代初頭のニューヨーク5番街の写真をみると、通りを走る馬車がわずか13年ほどで、すべてT型フォード(自動車)に置き変わっています。いま、自動車が自動運転に切り変わろうとしているなか、これと同じ現象が10年以内に起きるでしょう。従来の技術ロードマップの延長線上の発想だけでは、物流業界は取り残されてしまいます。つまり馬の蹄鉄を上手く作ることに腐心している、新時代の到来すら想像できなくなるのと同じことなのです。

弊社が2025年の稼働をめざす「フィジカルMaaS」(商標登録出願中)は、輸送網のインフラ化を目的とした革新的な物流システムです。様々な輸送手段の荷台番地と時間を一元的に管理する

ことで、最も積載率が高くなる組み合わせと輸送経路を割り出します。こうして輸送効率を飛躍的に高めるとともに、予約から決済までをスマートフォンひとつで簡単に行えるようになります。

— システムが複雑そうですね

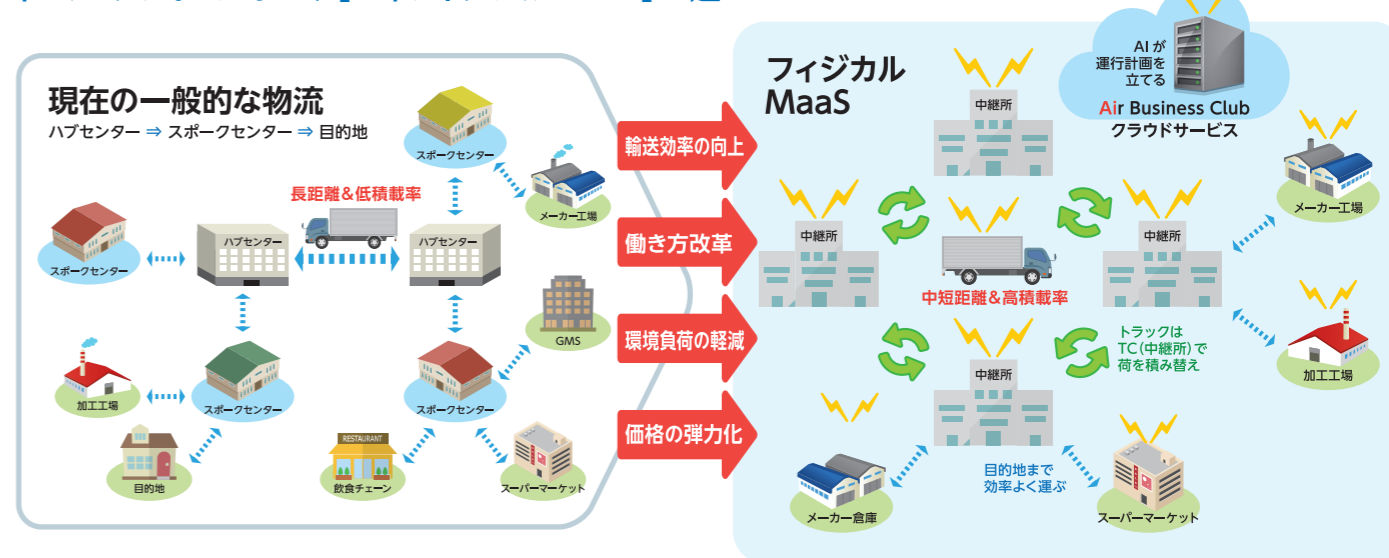
いいえ、仕組みはいたってシンプルです。トラックの荷台をパレット単位に区画し、それぞれに番地(アドレス)を付けて個別管理します。トラックは行き先が異なる荷を混載し、中継所(TC:トランスファー・センター)で自動積み降ろし装置や自動リフトによって、迅速に荷を積み替え、目的地近くのTCまでこれを繰り返します。そして最後のTCで複数方面から来た荷物を名寄せし、一括して目的地へ届けます。荷主は新幹線の座席チケットを取るように荷台スペースを予約できるようになります。現状の物



JA 滋賀蒲生町様と蒲生ETCへの誘致活動を行っている、ドライブスルー式自動積み降ろしシステム。荷の積み替えを完全自動化することで、ドライバーの待機時間と荷役時間を大幅に削減する。

流では、サプライチェーンごとに輸送が行われているため、運送業者は連携することなく、同じ場所に同じ荷物を別々に運んでいます。フィジカルMaaSでは、誰もが共有できるオープンプラットフォームを介して移動手段をシェアします。需要予測をもとにAI(人工知能)が立てた運行計画によりそれぞれの荷物が最適なルートで「乗り継ぎ」ながら目

「ハブ・アンド・スポーク」と「フィジカルMaaS」の違い



的へ届けられるイメージといえればわかりやすいでしょうか。

環境の視点から物流を変える

— 発想の原点は?

このアイデアはもともとトラックの積載率を100%に近づけたいという思いからスタートしました。現在、トラックの積載率は平均で40%に満たず、半分以上が“空気”を運んでいる状態です。それが毎日60～70万台も日本中を走り回っており、荷物をコントロールして積載率を上げれば、運行台数をかなり減らすことができます。

また、全国で68万人いるといわれるドライバーの高齢化も進んでおり、人材不足は業界の深刻な課題です。配送センターなどの荷降ろし先では、順番待ちが平均2時間に及ぶうえ、遠距離を走れば労働時間の規定に抵触し、往路と復路の間に休憩を挟むために必然的に長時間拘束されます。物流の効率化はまさに待ったなしの急務です。

その点フィジカルMaaSは、中継所から次の中継所までの中短距離の輸送ですので、ドライバーの負担が減らせるうえ、荷台の空きを最低限に抑えることができます。ドライバーの働き方改革に加え、トラックの走行台数を減らすことができますので、結果的にCO₂を大幅に削減することが可能になります。「物流を変えることが、環境問題のソリューション



重い荷物と軽い荷物をマッチングさせて積載率を上げる「重軽量/パレット貨物」事業は今秋から試験運用がスタートする予定。

— 起業されたきっかけは何でしょうか

実は今回の起業は2度目になります。私は新聞社の系列企業でシステムエンジニアとしてシステム開発をしていました。その後商社に移り、電算部門、生産部門、財務部門などに携わってきました。そんな折、トラック便の代金が復路に荷物を積むと半額になることを知り、ちょうどインターネットが出はじめたころだったので、運ぶ荷物を探す運送事業者(求荷)と、荷物を運ぶトラックを探す荷主(求車)のマッチングに応用できるとひらめき、1996年に世界に先駆け「インターネット求貨求車システム」を開発し起業しました。多くのメディアに取り上げられ話題になりましたが「収益の仕組み」を作らなかったために優位性が失われ、事業は波に乗れませんでした。

そこで今回はアイデアを「知財」として戦略的に権利化することにしました。基幹となる仕組み「荷台の番地管理」「ドライブスルー型センター」「積み替えリレー式の荷物の移動」「需要予測」「輸送ルートと積み替えの最適化」などAI(機

械学習)などのビジネスモデル特許をハードと組み合わせています。国内特許取得済みで海外にも出願中です。AIに関しては、滋賀銀行様の紹介により当初から滋賀県立大学様と共同研究を行っており、共同特許を出願中です。

とくに草津SOHOビジネスオフィス※に入居したことで、ほかの入居者とアライアンスを組めたのは大きな収穫でした。さらに、IM(インキュベーション・マネジャー)のアドバイスが的確でした。

— 今後の展望をおきかせください

現在JA様と共同で「重軽量貨物積み合わせ輸送」事業を進めています。例えば重い米はトラックの制限重量まで積んでも大きく空きスペースができます。そこにスナック菓子などの軽い荷物を積みめば、積載効率を大幅に高めることができます。現在、軽量荷物の荷主となる企業を募っており、今秋に運用開始の予定です。またJA滋賀蒲生町農協様とともに蒲生スマートIC付近にドライブスルー型センターを誘致する活動も行っています。今年の年頭に、三日月知事が2050年にCO₂排出量実質ゼロをめざすキックオフ宣言をされました。このフィジカルMaaSが実現すれば、トラックの走行台数を大幅に減らすことができ、大いに目標達成への貢献できるはず。問題は山積みですが「ALL滋賀」による物流革命と環境ソリューション事業を推進していきたいと思っています。

※草津SOHOビジネスオフィス

滋賀県では個人や企業を支援する目的で、事業の拠点として活用できる滋賀県立SOHOオフィス(草津・米原)を設置しています。ITを活用したビジネスモデルによる事業に取り組む個人や小規模企業に対して、オフィスを提供し、IM(インキュベーション・マネジャー)が本格的な事業展開を支援します。

問い合わせ先

(公財)滋賀県産業支援プラザ

経営支援部 創業支援課 担当/大隅

☎ 077-511-1412

☎ 077-511-1418

✉ in@shigaplaza.or.jp